

第152回国会概観

第152回国会（臨時会）は第19回参議院議員通常選挙の結果を受けて、8月7日に召集され、10日、終了した。

会期は、召集日の衆参両院本会議において、10日までの4日間とすることをそれぞれ全会一致により議決した。

開会式は、8日午前11時から参議院議場で行われた。

9日、両院本会議において、閉会中審査の手續等を行い、会期を1日残し事実上閉幕した。

内閣総理大臣の所信表明演説、代表質問及び議案の審議は行われなかった。

請願は、会期が短いため、受け付けなかった。

議院の構成

召集日当日、参議院本会議において、議席の指定、井上裕参議院議長の辞任の許可、議長及び副議長の選挙、常任委員の選任、常任委員長選挙、特別委員会及び調査会の設置等が行われた。

議長及び副議長の選挙は、無名投票の結果、第24代参議院議長に井上前議長が240票をもって再選され、また第24代参議院副議長に民主党・新緑風会の本岡昭次君が238票をもって当選した。

常任委員長選挙は、その手續を省略して議長の指名によることに決し、議長は17常任委員長を指名した。

特別委員会は、災害対策特別委員会等5特別委員会が設置された。各特別委員会において、それぞれ特別委員長を選任した。

調査会は、国際問題に関する調査会等3調査会の設置を決定した。各調査会において、それぞれ調査会長を選任した。

憲法調査会は、会長を選任した。

衆議院本会議において、議席の指定、災害対策特別委員会等5特別委員会の設置が行われた。なお、常任委員長交代はなかった。

9日、参議院本会議において、堀川久士事務総長の辞任が許可され、後任に川村良典事務次長が議長の指名により選任された。

第19回参議院議員通常選挙

7月29日、21世紀最初の国政選挙となる第19回参議院議員通常選挙が実施された。

選挙は、12日公示された。小泉純一郎内閣発足後、初の国政選挙であった。今回の選挙は、小泉総理の掲げる構造改革路線が最大の争点であり、自民、公明、保守の与党3党で過半数を確保できるか、注目された。

昨年の公職選挙法改正で、今回の選挙の定数は、選挙区で3、比例代表で2が削減された。また、比例代表選挙に非拘束名簿式比例代表制が導入された。

選挙の結果は、自由民主党64議席（改選議席61）、民主党26議席（同22）、公明党13議席（同13）、日本共産党5議席（同8）、社会民主党3議席（同7）、自由党6議席（同3）、

保守党1議席（同3）、無所属3議席（同6）となった。

非改選と合わせると、自由民主党110議席、民主党59議席、公明党23議席、日本共産党20議席、社会民主党8議席、自由党8議席、保守党5議席、無所属の会4議席、さきがけ1議席、第二院クラブ1議席、無所属8議席となった。

今回の投票率（全国平均）は、過去最高の不在者投票数があったにもかかわらず、比例代表で56.42%、選挙区で56.44%となり、前回の第18回通常選挙の投票率に比べると、比例代表で2.41ポイント、選挙区で2.40ポイントそれぞれ下回り、史上最低だった第17回通常選挙の投票率を上回ったものの、参議院議員通常選挙としては3番目に低い投票率となった。

また、参議院議員通常選挙では初めて行われた在外邦人による投票は2万2,054人であった。

（当選者は、Ⅶ 参考資料「第19回参議院議員通常選挙結果」を参照されたい。）

会派別議員数

会期終了日の8月10日現在における院内各会派の議員数は、自由民主党・保守党116、民主党・新緑風会60、公明党24、日本共産党20、社会民主党・護憲連合8、自由党8、無所属の会6、各派に属しない議員5となる。

（Ⅱ 参議院の構成「会派別所属議員数一覧」「会派別所属議員一覧」を参照されたい。）